

番号	45	名称	昌平橋
指定日	平成 19 年 3 月 28 日	所在地	神田淡路町一丁目～外神田一丁目（神田川）
設計者		竣工	大正 12 年（1923）



歴史・文化的特徴

昌平橋の名称は、徳川綱吉が「湯島聖堂」を、孔子の生地「昌平郷」にちなんで「昌平鬘（昌平坂学問所）」と名付け、近くの神田川に架かる橋（一口橋）を昌平橋に改名したことに由来する。

意匠・構造の特徴

関東大震災の直前である大正 12 年（1923）に竣工した区内では古い橋。昭和 5 年（1930）に改修が行われている。

簡素だが力強いデザインのアーチ橋である。

モダニズムの影響を感じる親柱が特徴的である。手すりは波型の意匠が施されている。

歩道部の側面は煉瓦張りにされ、周辺景観との調和が図られている。

歩車分離道としている。

周辺景観との関係

歩行者の視点からは印象的な親柱や手すり、舗装された路面が目に入る。

橋上はビルに囲まれた神田川を見通す視点場となっている。また旧万世橋駅の煉瓦アーチをよく見ることが出来る。

沿岸に道路が無いとため、周辺から橋梁の全景を見るのが難しい。

水面からはアーチ橋の印象的な全景を見ることが出来る。

JR 総武線・中央線からは煉瓦造の旧万世橋駅と昌平橋が調和した景観が見える。